

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：工学分野の参照基準とこれからの工学教育 ―参照基準が工学教育の質保証に果たす役割―
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
後援：一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）、
公益社団法人日本工学教育協会（JSEE）、一般社団法人日本機械学会
- 3 開催日時：平成26年12月7日（日） 13時30分～17時00分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨：
日本学術会議では大学教育の分野別参照基準の作成を進めており、工学系の分野においても既に機械工学と土木工学・建築学、材料工学の各分野の参照基準が完成し、電気電子工学分野でも案が取りまとめられつつある。これらの参照基準においては、大学教育の多様性を損なうことなく、各分野の教育の質保証に資するため、学士課程教育で踏まえてほしい最も本質的な内容に絞って、その具体的な内容を明らかにすることが目指されている。学術フォーラムにおいて各分野の参照基準の具体的な内容を概観し、今後それらを工学教育全般の質保証に活かす道を探る。
- 6 参加人数：
講演者等：9名
その他の参加者：46名
- 7 特記事項：
 - ① 科学技術振興機構のサイエンスポータルによってフォーラムが収録され、配信された。
 - ② これから参照基準を作成しようとしている分野の関係者の参加があり、パネルディスカッションでも意見・質問が寄せられたので、今後の審議に活かされることが期待される。
 - ③ 日本技術者教育認定機構（JABEE）が後援団体となっており、フォーラムのプログラムでも同機構の技術者教育プログラムの認定制度と分野別の参照基準との関係が議論された。同機構の認定制度は、当初は教育課程の外形的な評価に重点を置いていたが、現在はよりラーニングアウトカムズを重視し、全体のPDCAサイクルが適切に回っているかどうかの評価の重点をシフトしようとしている。各分野の教育の本質部分を抑えた参照基準が作成されることにより、こうした方向性がさらに推進されていくことが期待される。

※ 「特記事項」欄には、下記のようなことで、当該学術フォーラム開催による成果として特記すべき事項があれば、簡潔に記載。また、『学術の動向』への関連記事の掲載を行う場合、その旨を併せて記載

- ①メディアによる取材・報道等の状況
- ②委員会等の審議活動（意思の表出を含む。）への反映
- ③共同主催団体等における事後の取組

※記載はA4用紙で1枚以内とし、その他必要があれば関連資料等を添付